

# **(2)三重県建設産業活性化プラン**

～次期活性化プランの策定について～

## **中間案に向けた検討状況の報告**



1. 次期三重県建設産業活性化プランの策定状況
2. 第1回活性化プラン検討会議小委員会・  
第2回活性化プラン検討会議の開催結果
3. 第1回小委員会の意見概要
4. 第2回検討会議の意見概要
5. 建設業界からの意見・要請
6. 施策体系
7. 今後の進め方



## 次期プラン（R6～R9）の策定

- 県と建設業界が連携することで、建設業が抱える課題等を解決し、地域の建設企業が時代の変化に対応しながら、将来にわたり存続し続けることを目指して、次期建設産業活性化プランを策定する。

## 取組方針（案）

### 地域の建設企業の存続（時代の変化に対応した経営）

#### 【担い手の確保】

教育機関との連携の下、建設業の  
**魅力を発信**し、担い手を確保する

#### 【生産性の向上】

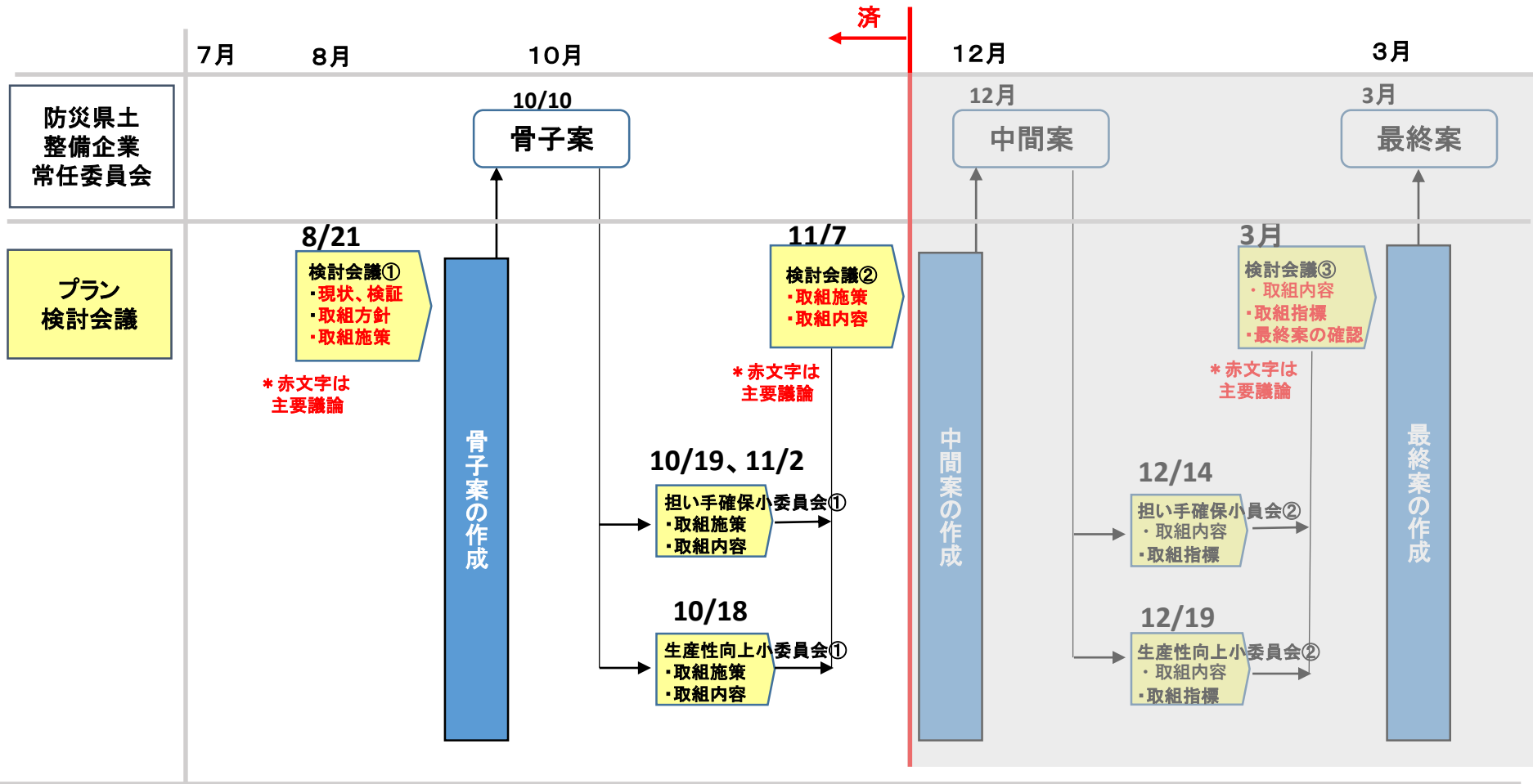
業務プロセスの仕組みの改善や、  
**建設DX**の導入により、生産性を  
向上させる

休日の確保や長時間労働の是正、  
女性活躍等を推進し、労働環境の  
改善を図る

#### 【労働環境の改善】



# 1. 次期三重県建設産業活性化プランの策定状況



次期三重県建設産業活性化プラン(仮称)策定 令和6年3月(目標)



## 第1回検討会議 骨子案

議論 策定主旨・計画期間

議論 建設業に期待する役割

議論 現状分析・課題  
現プランの検証

議論 取組方針（案）

議論 取組施策（案）

※現状分析・課題、現プランの検証を踏まえ、取組方針、取組施策を中心に議論

## 第2回検討会議 中間案

確認(決定) 策定主旨・計画期間

確認(決定) 建設業に期待する役割

確認(決定) 現状分析・課題  
現プランの検証

確認(決定) 取組方針

議論 取組施策（案）

議論 取組内容（案）

※取組施策、取組内容を  
中心に議論

## 第3回検討会議 最終案

確認 策定主旨・計画期間

確認 建設業に期待する役割

確認 現状分析・課題  
現プランの検証

確認 取組方針

確認(決定) 取組施策

議論(決定) 取組内容（案）

議論(決定) 取組指標（案）

※取組内容、取組指標を議論  
最終案を全般にわたり確認する

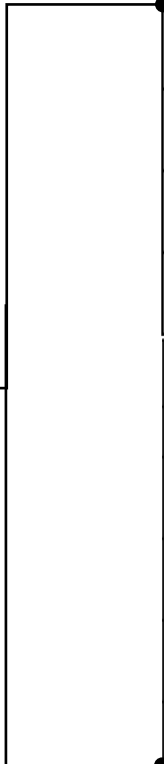
議論 : 各会議で主にご議論いただきたい部分

## 検討会議 委員一覧

三重県建設産業活性化プラン検討会議		
役職	氏名	分野
三重大学大学院 生物資源学研究科 教授	岡島 賢治	学識経験者
成蹊大学 経済学部 名誉教授	井出 多加子	
名古屋工業大学大学院 工学研究科 教授	秀島 栄三	
東日本建設業保証株式会社 三重支店長	上田 樹雄	
百五総合研究所 主任研究員	小林 ゆかり	金融・シンク タンク
三重県立伊勢工業高等学校 校長	奥山 敦弘	教育
三重県建設業協会 労働委員会 担当副会長	橋爪 吉生	建設企業
市町（発注者協議会） 津市建設部長	渡邊 公隆	行政
三重県県土整備部 理事	佐竹 元宏	

生産性向上 小委員会		
役職	氏名	分野
名古屋工業大学大学院 工学研究科 教授	秀島 栄三	学識経験者
(一社)建設ディレクター協会 理事長	新井 恭子	建設 D X
中部i-Construction研究会 ICTアドバイザー	福嶋 成仁	
中部i-Construction研究会 ICTアドバイザー	有城 和哉	建設企業・ 建設 D X
三重県建設業協会 土木委員会 副委員長	山野 浩	建設企業
三重県県土整備部 技術管理課長	濱瀬 賢司	行政

担い手確保・育成 小委員会		
役職	氏名	分野
成蹊大学 経済学部 名誉教授	井出 多加子	学識経験者
三重県立津工業高等学校 教諭	山脇 和吉	教育
三重県立桑名北高等学校 主幹教諭	井上 和也	
三重県立紀南高等学校 教諭	福田 美佳	
三重県建設業協会 労働委員会 委員長	伊藤 秀樹	建設企業
三重県建設業協会 女性部会 会長	松本 くみ子	
三重県県土整備部 副部長(公共事業総合政策担当)	上村 告	行政





# 2. 第1回活性化プラン検討会議小委員会・ 第2回活性化プラン検討会議の開催結果

## 第1回小委員会の開催結果

建設産業の現状分析結果、現プランの取組結果から、次期プランで取り組むべき課題を整理し、3つの取組方針に基づき、各小委員会のテーマごとに委員の立場から忌憚ない意見を頂いた。

### 担い手確保小委員会

開催日：10月19日（木）、11月2日（木）

#### 【検討内容】

- ・ **魅力発信**など、教育機関との連携取組
- ・ **望まれる労働環境**と実現に向けての取組（共通）



### 生産性向上小委員会

開催日：10月18日（水）

#### 【検討内容】

- ・ **建設DX等**の生産性向上の具体取組
- ・ **望まれる労働環境と実現に向けての取組**（共通）



## 第2回検討会議の開催結果

開催日：11月7日（火）

担い手確保小委員会・生産性向上小委員会で作された意見の概要、及び出された意見を施策や取組へ反映する方向性について議論いただきました。

#### 【結果】

取組内容について、事務局案をもとに次回の各小委員会にて、第2回検討会議の意見も踏まえ、取組指標とともに議論を深めていくよう意見をいただきました。





### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（魅力発信）

- 建設業の魅力を伝えることができていないことは学校側にも反省点がある。
- 業界全体を知ってもらうためには、個々の企業では負担が大きい。業界・行政で行う必要がある。

#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・ 建設業の現状や魅力(※)を発信する新たなツールとして動画を活用していきます。
- ・ 動画は学校・業界・行政の意見を踏まえ作成し、作成した動画は、企業や学校が、建設業界のPRや魅力発信のために使用できるようにしていきます。

#### ※ 魅力・やりがいとは・・・

- ・ ものづくりの楽しさ・達成感
- ・ 人命と財産を守る仕事
- ・ 地図に残る大きな仕事
- ・ 労働環境の変化（週休2日、建設ディレクターや建設DX）など

検討会議で議論

#### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 33 （1）教育機関・建設業界・行政との連携  
 1）学校（進路指導教諭）訪問等  
 2）進路教諭と建設企業の交流会

【別冊】 P 34 （2）生徒への魅力発信・動機付け  
 1）出前授業・現場見学会等の開催  
 2）多角的な広報活動

次回議論





### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（企業の採用活動）

- 建設業は求人票に「作業員」と記載されるが、「技能職」等と言い換えるべき。言葉を見ただけで候補から除外されてしまう。
- 大手企業は高校生の人材確保に力を入れており、生徒向けの採用HPを展開している企業もある。
- （建設企業は）求人票については、業界全体として、時代に合わせた内容に更新していく努力が欠けているが、どのように書けばいいか分からない。
- 求人票の書き方など、教員との交流会の中で説明させてもらっても良い。
- 中小企業では、採用担当者を人材育成することが難しい。

#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・ 建設企業が採用活動（求人票の書き方、魅力あるHPの作り方など）に関して進路指導教諭からのアドバイスを受け、より効果的な採用活動が実施できるように支援します。

#### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 33 （1）教育機関・建設業界・行政との連携  
3）採用活動における連携



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（出前授業等）

- 普通科高校にも積極的に出前授業等を実施してもらっていることは頼もしく感じている。今後も力を入れてやっていただきたい。
- 地元企業の協力で建設業との交流会も取り組んでいる。多くの生徒が興味を持つことは難しいが、プラスに働いている。
- 高校のOB・OGが学校訪問することは効果的である。知っている先輩が入社1～2年目の社員として話をしてくれると生徒の心に刺さる。
- 建設業のやりがいを大きく発信する必要がある。



#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・ より多くの生徒に魅力を伝えるため、普通科高校に対し積極的に出前授業・現場見学会等を実施していきます。
- ・ OB・OG訪問の実施、ものづくりの楽しさや技術の習得など建設業のやりがいを発信することで、生徒の心に響く取組の実施を促進します。



#### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 34 （2）生徒への魅力発信・動機付け  
1) 出前授業・現場見学会等の開催



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（インターンシップ）

- 建設業は現場の繋閑差があり、実施時期によってはインターンシップの実施が適切でない場合がある。現場の掃除しかさせてもらえず、イメージが悪化したケースがある。
- 企業見学時に説明者が一生懸命プレゼンしたことに心を打たれ、説明を受けた生徒の進路希望が変わったという話を聞いた。
- インターンシップに参加した生徒が、そのままその会社に就職したケースがある。
- 高校1年生を対象に、生徒が自らコースを選択して企業見学・体験ができる進路研究を実施している。就職後のイメージ、興味を持ってもらうため数年間継続している。
- 高校2年生の選択科目として金曜日（年間16回）に自宅から直接企業に行き、職場体験をするインターンシップを実施している

#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・ インターンシップの場を利用した建設業の魅力発信を促進します。
- ・ 学校のカリキュラムに沿って、生徒の学年に応じた効果的な取組（実施時期、内容の検討）を実施していきます。

#### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 33 （1）教育機関・建設業界・行政との連携  
1) 学校（進路指導教諭）訪問等

【別冊】 P 34 （2）生徒への魅力発信・動機付け  
1) 出前授業・現場見学会等の開催



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（保護者への建設業のイメージアップ）

- 生徒向け求人票管理システムアプリは保護者も閲覧できるため、効果的なツールとして広がりつつある。
- 就職活動や進学活動は、保護者が大きく影響を与えている。ほぼ内定していても保護者が反対して辞退された事例もある。
- 大雪発生時の雪氷対策など建設業への理解が深まってきているが、保護者の心を掴めていない。

#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・ 生徒や保護者が多く利用している求人票管理システムアプリを活用し、身近に情報が得られるような効果的な広報活動を促進します。
- ・ 保護者に対して、従来の建設業のイメージから転換できるよう、労働環境の改善の取組など、保護者に響く建設業の魅力発信を実施していきます。

検討会議で議論

#### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 34 （2）生徒への魅力発信・動機付け  
2）多角的な広報活動

次回議論



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「生産性向上 小委員会」にて出された意見（生徒への魅力の伝え方）

- 工業高校で学習する技術は基礎的な内容であり、現場で使用している最先端の技術を学べていない。学校と地域の建設企業が連携して今の技術で勉強会を開催することが効果的。
- 出前授業をした際、建設業の使命を説明することで就職を考える際の選択肢になる可能性があると感じた。
- 3Dを使用した方が見栄えが良い。若者が活躍できる場としてPRできれば、担い手の確保につながる。



#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・ 工業高校において、今の技術が学べるよう学校と企業とが連携して取り組みます。
- ・ 就職の選択肢に加えてもらえるよう、生徒に建設業の使命を説明します。
- ・ 魅力発信において、3Dを使用したものをPRしていきます。

検討会議で議論

#### 担い手の確保

反映する  
取組

- 【別冊】 P 33 （1）教育機関・建設業界・行政との連携  
2）進路教諭と建設企業の交流会
- P 34 （2）生徒への魅力発信・動機付け  
1）出前授業・現場見学会等の開催

次回議論



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（キャリアデザイン）

- 若手女性社員にとって地域の建設業は、衣服等の恰好や勤務時間など比較的柔軟な働き方ができるため、自由度の高い職場であると捉えている様に思う。
- キャリアデザインを明確にして、自分の努力次第で実現できる事項など製造業とは違った魅力を見つけてもらいたい。

#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・魅力発信においては、建設企業に他の産業にはない建設業ならではの魅力を聞き取り、発信していきます。
- ・建設企業においては、就職後のキャリアデザインを示すことが重要となため、その取組（企業におけるキャリアデザイン作成）が実施できるように支援します。

検討会議で議論

#### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 34 （2）生徒への魅力発信・動機付け  
2）多角的な広報活動

#### 労働環境の改善

反映する  
取組

【別冊】 P 41 （4）適正な利潤の確保・人材育成・福利厚生  
3）福利厚生の充実

次回議論



# 3. 第1回小委員会の意見概要

## 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（新たな3Kへの取組）

●今の生徒は「給料」「休日」「きれい（勤務形態）」といった新たな3Kを重視しており、求人票でもこの3点は重要な項目である。

### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・採用活動において、生徒のニーズを踏まえ、求人票への記載項目の改善を促進します。
- ・生徒が重要視する内容が実現できる労働環境を整えるため、適正な企業利潤の確保、週休2日、労働時間の削減、安全な職場環境等の実現に対して取組を実施します。

検討会議で議論

### 担い手の確保

反映する  
取組

- 【別冊】 P 33 (1) 教育機関・建設業界・行政との連携  
3) 採用活動における連携

### 労働環境の改善

反映する  
取組

- 【別冊】 P 38 (1) 週休2日制の定着  
1) 4週8休の定着  
2) 市町発注工事における週休2日制工事の定着  
3) 民間発注工事への周知・促進
- 【別冊】 P 40 (3) 安全で快適な労働環境の実現  
2) 誰もが快適に働くことができる職場環境の整備
- 【別冊】 P 41 (4) 適正な利潤の確保・人材育成・福利厚生  
1) 適正な利潤の確保への適切な対応

次回議論



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（採用活動用パンフレット）

- どんな資格が取得できるか等、将来の仕事が見えて、どのくらいの給与水準かといったことがパンフレットに記載されている企業は教員からの評価が高い。

#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・生徒や教員のニーズを踏まえ、適切な情報を記載したパンフレットの作成を促進します。
- ・生徒に就職後の将来像を示していけるように、企業に対してキャリアパス（役職、経験年数、職務内容、必要とする資格など）の策定を促進します。

検討会議で議論

#### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 33 （1）教育機関・建設業界・行政との連携  
3）採用活動における連携

#### 労働環境の改善

反映する  
取組

【別冊】 P 41 （4）適正な利潤の確保・人材育成・福利厚生  
3）福利厚生の充実

次回議論





### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（資格取得支援）

- 資格の取得支援について、個人負担をいかに減らすかが人材育成としては大事



#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・ 工業高校において、在学中から就職後に必要となる資格の取得支援を実施していきます。
- ・ 企業において、若手従業員のキャリア形成に活かされる資格取得が促されるよう、必要な支援策を実施していきます。



検討会議で議論

#### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 34 （2）生徒への魅力発信・動機付け  
3）資格の取得支援

次回議論



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（U・Iターン人材の確保）

- U・Iターンは、その土地や人に魅力があって移住する。
- 衣食住だけでは人は来ない。教育や福祉、働く場所などがワンストップで提供されることで移住する。三重県の魅力発信と建設業をつなげていく仕組みがないと移住しようと思わない。
- 建設業の話の先に持ってきても、生活していく上で不安材料があると移住しない。まず自分たちの生活ができることが前提。
- 空き家対策など、何かの取組施策と建設業の雇用を組み合わせる紹介することができれば良い。



#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・教育や福祉、衣食住と合わせて建設業の魅力を発信していく取組を実施していきます。



#### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 35 (3) U・Iターン人材等への働きかけ  
1) 他部局連携によるU・Iターン人材確保



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（外国人雇用の確保）

- 全体的に全産業で担い手不足となっており、ここ数年で解消されるとは思えない。
- 外国人労働者の育成も大きなテーマである。
- 監理者・技術者の外国人労働者はあまりみかけない。事例を作って欲しいなと思う。
- 外国人労働者が現場に入ると、提出する書類が煩雑になると聞く。
- 困っている企業に対して、手続きで困らないよう行政が支援すべき。

#### 意見対応の方向性（事務局案）

・外国人雇用制度への理解を進めるため、他部局が開催する外国人雇用制度に係る説明会等に建設企業が参加できるよう、業界への周知及び他部局との連携・調整を実施していきます。

検討会議で議論

#### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 35 (3) U・I ターン人材等への働きかけ  
3) 外国人雇用への働きかけ

次回議論



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「生産性向上 小委員会」にて出された意見 (ICT活用工事)

- Bランク企業にICTを活用する意識が不足している。
- 採算面が合わないのでICT施工を実施できない現場もある。実施率を上げるためには、実情に見合った設計額を設定する必要がある。

現状

三重県は平成30年度から本格的にICT活用工事に取り組んでおり、現在、実施率は65%、企業経験率はAランク64%、Bランク22%となっています。また施工者のアンケート結果からは、生産性が従来施工より約4割向上することを確認しています。

検討会議で議論

#### 意見対応の方向性 (事務局案)

- ・ 未経験企業を対象にICT活用工事のメリット等を説明し、企業経験率を向上させます。
- ・ ICT活用工事における採算性や生産性向上の効果が現場条件等でどう異なるかを検証し、より効果のある施工プロセスの活用例を示すなどを行います。

#### 生産性の向上

反映する  
取組



【別冊】 P 36 (1) 建設現場における生産性向上  
1) 建設DXの推進  
2) ICT活用工事の推進

次回議論

※ICT活用工事とは、ドローンやICT建機により測量や施工など5つのプロセスで生産性を向上させる工事です。



# 3. 第1回小委員会の意見概要

## 「生産性向上 小委員会」にて出された意見 (ICT活用)

- 発注者側が建設業界の実態を理解し、どの程度効果があるか検証することが必要。
- ASPや3次元測量などを使用して効率化した施工プロセスを評価する仕組みが必要。
- ICTは特殊な仕事であり、専門的な人材がいなければ難しい。(建機リース会社としては)最初は外注と一緒に取り組もうというスタンスで対応している。
- ICTを自社で行うには、専門的な人員を育成することが必要で、分業化していくことで利益がでて普及に繋がっていく。



### 意見対応の方向性 (事務局案)

- ・建設DXにより生産性向上を図った場合のインセンティブを検討します。
- ・ICT研修会を開催するなど、ICTを活用できる人材の育成に取り組みます。
- ・建設企業のICT専門人材を育成します。

検討会議で議論

### 生産性の向上

反映する  
取組

【別冊】 P 36 (1) 建設現場における生産性向上  
1) 建設DXの推進

### 労働環境の改善

(2) ICT人材育成

1) ICT研修による人材の育成

反映する  
取組

【別冊】 P 39 (2) 施工管理の効率化・分業化  
1) 施工管理の社内分業化への支援

次回議論

※ICT活用とは、ASPや遠隔臨場など、あらゆるDXにより生産性を向上させる取組です。

※ASPとは、インターネット上で工事書類のやりとり(提出・決裁)、図面などのデータ共有を行うシステムです。



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（週休2日制）

- 以前と比較すると状況は改善してきているが、完全な週休二日には至っていない。人員を交代しようにも人員がない。
- 4週6休を達成しているが、4週8休には至っていない。
- 市町の工事は週休二日が評価される訳ではない。発注者の考え方に左右される。休み方に差がでてくる。

#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・完全週休2日制工事や交替制モデル工事を推進します。
- ・市町の取組が加速するよう県の取組を情報提供するとともに、啓発や必要な支援を実施します。
- ・建築確認審査機関等に対し、民間企業（建築確認申請者）の適正な工期設定、週休2日の確保、時間外労働時間の削減等の周知を依頼します。

#### 労働環境の改善

反映する  
取組

- 【別冊】 P 38
- （1）週休2日制の定着
  - 2）市町発注工事における週休2日工事の定着
  - 3）民間発注工事への周知・促進

検討会議で議論

次回議論



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「生産性向上 小委員会」にて出された意見（週休2日制）

- 週休二日制は、公共土木は工期を確保できているが、民間建築は対応が難しい。
- 他の企業が土曜日に働いている状況を見ると、業界として良くないと思うため、業界全体として週休2日が浸透していくよう進めてほしい。



#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・県工事以外（民間、市町）発注工事の週休2日制を促進させるため、民間発注者への普及啓発や市町への取組要請を行います。



#### 労働環境の改善

反映する  
取組

- 【別冊】 P 38
- （1）週休2日制の定着
  - 2）市町発注工事における定着
  - 3）民間発注工事への周知・促進

検討会議で議論

次回議論



# 3. 第1回小委員会の意見概要

## 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（業務の分業化）

- 社内分業による業務の効率化、時間外削減に効果があると考えます。
- 建設ディレクター（バックオフィス）制度を取り組みたいと考えているが、なかなか若手（女性の方）に振り向いてもらえない。高校の求人にもどのように記載すればよいか分からない。
- 建設ディレクターに仕事を任せる側の現場監督が、現場状況を遠隔で説明できず現場に来てほしいと考えているため、分業化がうまく機能していない。
- 建設ディレクターの成功例を示すことで、建設企業が取り組むヒントになる。

検討会議で議論

### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・バックオフィスを活用している企業によるセミナー等を実施していきます。
- ・バックオフィスについて、進路指導教諭からのアドバイスを受け、生徒に対して、より効果的な紹介が実施できるように支援します。

### 労働環境の改善

反映する  
取組

【別冊】 P 39 （2）施工管理の効率化・分業化  
1）施工管理の社内分業化への支援

### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 33 （1）教育機関・建設業界・行政との連携  
3）採用活動における連携

次回議論





### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「生産性向上 小委員会」にて出された意見（バックオフィス）

- 技術者の仕事の6割が書類作成業務のため改善が必要。バックオフィスと現場が共同で取り組むリモート体制を活用する必要がある。
- バックオフィスを進めていくためには、企業内での体制づくりが必要。また人材においては、現場の基礎知識が一定必要。
- 建設業での新たな働き方が認知されはじめ、建設業のイメージアップにつながっている。キャリアパスを設定することで、自分のライフステージに合わせて、現場とバックオフィスを選択できるのではないかな。

#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・施工管理の分業化を進めるための企業内の体制づくり、人材育成、環境整備に取り組む必要があり、バックオフィス導入促進などの支援に取り組めます。

#### 労働環境の改善

反映する  
取組

【別冊】 P 39

（2）施工管理の効率化・分業化

- 1) 施工管理の社内分業化への支援
- 2) 施工管理の効率化を支援



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「生産性向上 小委員会」にて出された意見（ASP活用）

- 県はASPをもっと推進してもらいたい。工夫して業務時間を削減することで、時間外労働時間規制に対応できる。
- ASPは書類や掲示板、設計図の図面など様々な場面で活用できる。
- ASPは受注者や発注者間だけでなく、社内での活用が進まなければ普及は難しい。
- 映像により現場を可視化し、遠隔で管理ができることは効果的である
- 工事成績で点数をとるため、書類作成が非常に多い。



#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・ 県発注工事においてASP活用を推進します。
- ・ 市町へASP導入に向けた説明会や支援に取り組みます。
- ・ ASPや遠隔の活用事例を紹介し、社内活用も促進します。
- ・ 工事書類の標準化に取り組みます。



#### 労働環境の改善

反映する  
取組

【別冊】 P 39 （2）施工管理の効率化・分業化  
2）施工管理の効率化を支援

検討会議で議論

次回議論



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見（安全環境）

- 以前より安全環境は改善されている。福利厚生も自信を持って伝えられるぐらいになってきている気がする。
- サマータイム導入は考えられる。夏は涼しい時間に作業して、早く終わらせて帰るほうが良い。フレックスができればよいが、近隣住民の苦情は発生する。
- サマータイムは有効かもしれない。イメージアップにもつながる。実証実験をしてはどうか。

#### 意見対応の方向性（事務局案）



- ・建設業の魅力発信として、安全環境の改善をアピールしていきます。
- ・フレックスタイムなど労働環境の更なる改善を検討します。



検討会議で議論

#### 労働環境の改善

反映する  
取組

【別冊】 P 40 （3）安全で快適な労働環境の実現  
1) 施工現場の安全確保（事故防止の徹底）

次回議論



### 3. 第1回小委員会の意見概要

#### 「生産性向上 小委員会」にて出された意見（安全性の向上）

- ICTは熟練度に関係無く施工でき、安全性も高い。BIM/CIMを活用すれば危険箇所も分かる。安全な作業、事故の減少によりイメージアップを図ることができる。
- ICT建機は、山合・谷合の現場で使用することが多い。ICT建機導入により安全性が高まる点をPRしている。



#### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・ 安全性を高めるためにも、ICT建機やBIM/CIMの活用を推進します。
- ・ 労働安全対策としてDXの活用を推進します。



#### 労働環境の改善

反映する  
取組

【別冊】 P 40 （3）安全で快適な労働環境の実現  
1）施工現場の安全確保

検討会議で議論

次回議論



## 4. 第2回検討会議の意見概要

### 第2回検討会議で出された主な意見

#### 「取組方針1 担い手の確保」

##### 1) 魅力発信・イメージアップ

- 生徒は、就職したら1日をどう過ごすのかがよくわかっていない。それぞれの職種ごとにどんな働き方をしているのか、やりがいや、キャリアパスはどのような感じか動画で伝えられると良い。
- 生徒と年齢の近い若手社員の働き方、生活、収入などが見える化すると良い。
- 動画のクオリティ、コンテンツも大事だが、どうやって見てもらうか、広げるかが重要。
- 動画等は既存のコンテンツでもよい。他県の事例など整理したものを教員に伝えるのも有効。
- 動画は何かと絡めて発信する工夫が必要（有名な声優・インフルエンサーなど）
- 小中学校へも出前授業が出来ると小学校～大学までつながったアプローチになる。
- 大学の教職課程で、建設業がやっている内容を教えていくことが有効。10年、20年続けていくと理解が深まった学生が教員になるため業界への理解が進む。
- 普通科の教員と交流したが、普通科の教員は旧の建設業のイメージが強く残っている。一般の家庭でも同じことだと感じた。



## 4. 第2回検討会議の意見概要

### 「取組方針1 担い手の確保」

#### 2) U・Iターン

移住については、市町のHPを見る傾向にある。県のHP見ないため、市町のロールモデルをピックアップすると良い。

#### 3) 外国人材の登用

多言語表示増えている。働いている人のニーズを埋めていくことで、多くの方に魅力が伝わっていく。他部局とも連携して働いていく環境も考えていくと良い。



## 4. 第2回検討会議の意見概要

### 「取組方針2 生産性の向上」

#### 1) 建設現場における生産性の向上

- 現場にとってもDX化は勉強しながら進めている段階。新入社員が入ってすぐ対応できるように、学校としてもDXの感性を育てていく。
- 工業系高校は3年生に課題研究の時間がある。その中でDXを導入したモノづくりについて、班別学習や授業に組み込んでできると考えている
- 伊勢工業、建築科ではAR技術を活用（地元企業と協力）し3D図面にタブレットをかざせば実寸台で表示される実習授業を実験的に行っている。
- ICT活用工事＝DXではない。インセンティブを与えるときには、DXのどの部分に与えるかしっかりと考えてほしい。
- ICT活用工事の人材育成について資格制度が無い中で、研修を誰がどのような形で開催するか分からない。
- DXは、誰が使うかも含めて業務のフローで考えてどの部分で何の必要があって使うのかを整理することが必要。



### 「取組方針3 労働環境の改善」

#### 1) 週休2日制の定着

- 週休2日制工事、市町への浸透が大事だが、**市町議会の理解が進まない。週休2日によりコストが上がる**ところを理解していない。

#### 2) 施工管理の効率化・分業化

- 高校の教員は、建設ディレクターを全く知らない。何を**する仕事なのかイメージしにくい。**現場の動きと併せて、成功例を用いて学校へ説明する**よい。
- 建設ディレクターは、**協会があるので業務内容を参考**にしてほしい。
- 建設ディレクターという言葉にかっこいいイメージ**がわく。
- 現場も大事だが、**バックオフィスのこと大事も。オフィス仕事は、時間外削減できる部分**があると感じている人も多い。
- デジタル化が進むことにより高度化、複雑化が進むため、書類のスリム化**が必要。
- すべてを電子化するのではなく、必要な分とそうでない分を精査**していく必要がある。
- 三重県はICT活用工事は進んでいるが、**電子契約は進んでいない**。





### 「最終案のとりまとめについて」

#### 1) 記載事項について

- 取組の主体は誰か（県、市町、企業）をわかりやすくする必要がある。
- 現プランを踏襲するものでなく、小委員会を設置した意義、意気込み、議論した事の原因が伝わるようにまとめるとよい
- ASP、BIM、CIMなど一般には言葉が分からないこともあるため、分かってもらえるようにしていくとよい。

#### 2) 新しい取組への配慮事項

- 新たな取組・制度の導入は経費が必要となる。
- 新たな取組・制度を導入することで企業や市町へしわ寄せが出る場合もある。
- 県の支援については、支援内容が具体的にわかるよう記述する。



## 5. 建設業界からの意見・要請

項目	業界から寄せられている意見の概要
高校へのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"><li>• 普通科高校を含め三重県全体の高校へアプローチすることが大事。</li><li>• 出前授業や現場見学会など、他の手法も含めて効果的な手法の検討が大事</li><li>• 出前授業や現場見学会などの良い事例をマニュアル化してほしい</li></ul>
週休2日制工事の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>• 週休2日制は喫緊の課題。あわせて適正な工期の設定ということが必要。また発注時期、平準化も併せて検討も必要。</li><li>• 土曜日工事は民間工事で多く、週休2日のアプローチが必要。あわせて市町についても同様にアプローチが必要。</li><li>• 地域維持型業務や河川内工事などに対する週休2日制の考え方の検討が必要</li></ul>
バックオフィスの導入	<ul style="list-style-type: none"><li>• 現場の負担を減らせるという意味で、建設ディレクター（バックオフィス）はいいこと。</li><li>• 建設ディレクターの役割や立場を明確化してほしい。</li></ul>
遠隔臨場の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>• 遠隔臨場は、県全体で取り組むことによって、かなり効率が上がる。</li></ul>
現場事故防止の徹底	<ul style="list-style-type: none"><li>• 事故防止のアプローチとしては、作業の途中段階でのパトロールなどが効果的</li></ul>
利潤確保の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>• 三重県の平均落札率は他県と比べて非常に低い。</li><li>• 県内建設企業の工事受注量の確保が必要。</li><li>• 担い手確保、技術者育成の取り組むための経費が必要。</li><li>• 適正な諸経費、物価及び資材上昇分を適正に工事価格へ反映することが必要。</li></ul>



# 6. 施策体系

## 取組方針（案）

## 取組施策（案）

## 取組内容（案）

## 取組指標（案）

### 担い手の確保

教育機関・建設業界  
・行政の連携

- ・学校（進路指導教諭）訪問等
- ・進路教諭と建設業の交流会
- ・採用活動による連携

生徒への魅力発信  
・動機付け

- ・出前授業・現場説明会等の開催
- ・多角的な広報活動
- ・資格の取得支援

U・Iターン人材等  
への働きかけ

- ・他部局連携によるU・Iターンの人材確保
- ・進路指導教諭との関係強化によるU・Iターンの人材確保
- ・外国人雇用への働きかけ

### 生産性の向上

建設現場における  
生産性向上

- ・建設DXの推進
- ・ICT活用工事の推進
- ・新技術の活用

ICT人材の育成

- ・ICT研修による人材の育成

測量・設計・施工  
の効率化

- ・BIM/CIM活用、支援

### 労働環境の改善

週休2日制の定着

- ・4週8休の定着
- ・市町発注工事における週休2日工事の定着
- ・民間発注工事への周知・促進

施工管理の効率化・分業化

- ・施工管理の社内分業化への支援
- ・施工管理の効率化を支援

安全で快適な労働環境の  
実現

- ・施工現場の安全確保（事故防止の徹底）
- ・誰もが快適に働くことのできる現場環境の整備

適正な利潤の確保・人材  
育成・福利厚生

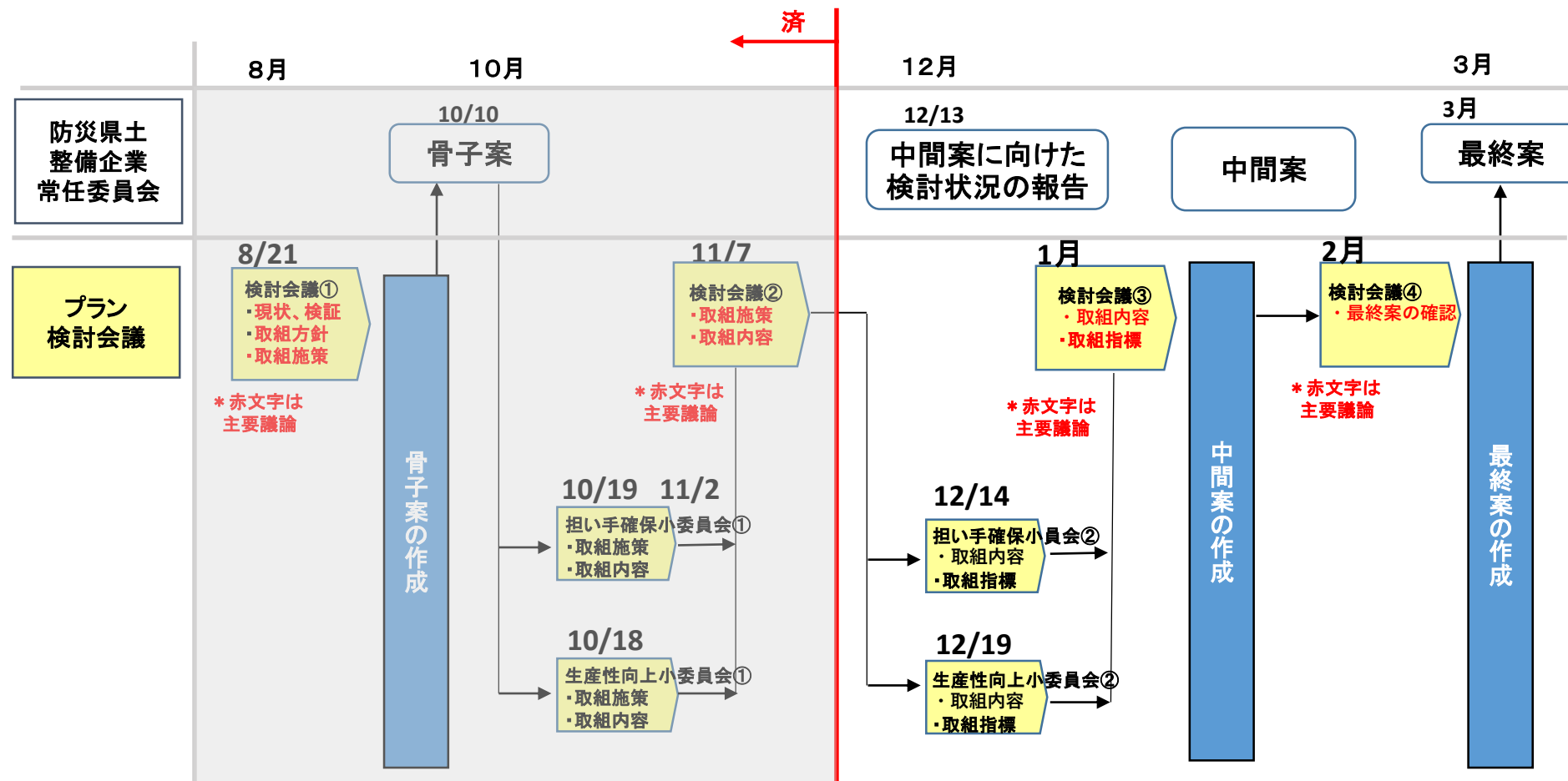
- ・適正な利潤の確保への適切な対応
- ・技術の継承と処遇改善
- ・福利厚生の充実

次回以降  
で議論



# 7. 今後の進め方

- いただいた意見をもとに、検討会議・小委員会等で議論を深め、中間案・最終案をとりまとめます。
- 中間案については、とりまとめ次第、各委員へ個別に説明します。





# 7. 今後の進め方

## 第1回検討会議

骨子案

議論 策定主旨・計画期間

議論 建設業に期待する  
役割

議論 現状分析・課題  
現プランの検証

議論 取組方針 (案)

議論 取組施策 (案)

## 第2回検討会議

中間案

確認(決定) 策定主旨・計画期間

確認(決定) 建設業に期待する  
役割

確認(決定) 現状分析・課題  
現プランの検証

確認(決定) 取組方針

議論 取組施策 (案)

議論 取組内容 (案)

## 第3回検討会議

追加

中間案

確認(決定) 策定主旨・計画期間

確認(決定) 建設業に期待する  
役割

確認(決定) 現状分析・課題  
現プランの検証

確認(決定) 取組方針

議論 取組施策 (案)

議論 取組内容 (案)

議論 取組指標 (案)

## 第4回検討会議

最終案

確認 策定主旨・計画期間

確認 建設業に期待する  
役割

確認 現状分析・課題  
現プランの検証

確認 取組方針

確認(決定) 取組施策

確認(決定) 取組内容

確認(決定) 取組指標

※現状分析・課題、  
現プランの検証を  
踏まえ、取組方針、  
取組施策を中心に  
議論

※取組施策、取組内容を  
中心に議論

※取組施策、取組内容、  
取組指標を議論

※最終案を全般に  
わたり確認する

第1回小委員会で非常に多くの意見をいただいたことから、中間案の作成前に検討会議の開催を1回増やし、丁寧な議論のもと意見を取組へ反映させることとした。

## 第2回三重県建設産業活性化プラン検討会議資料

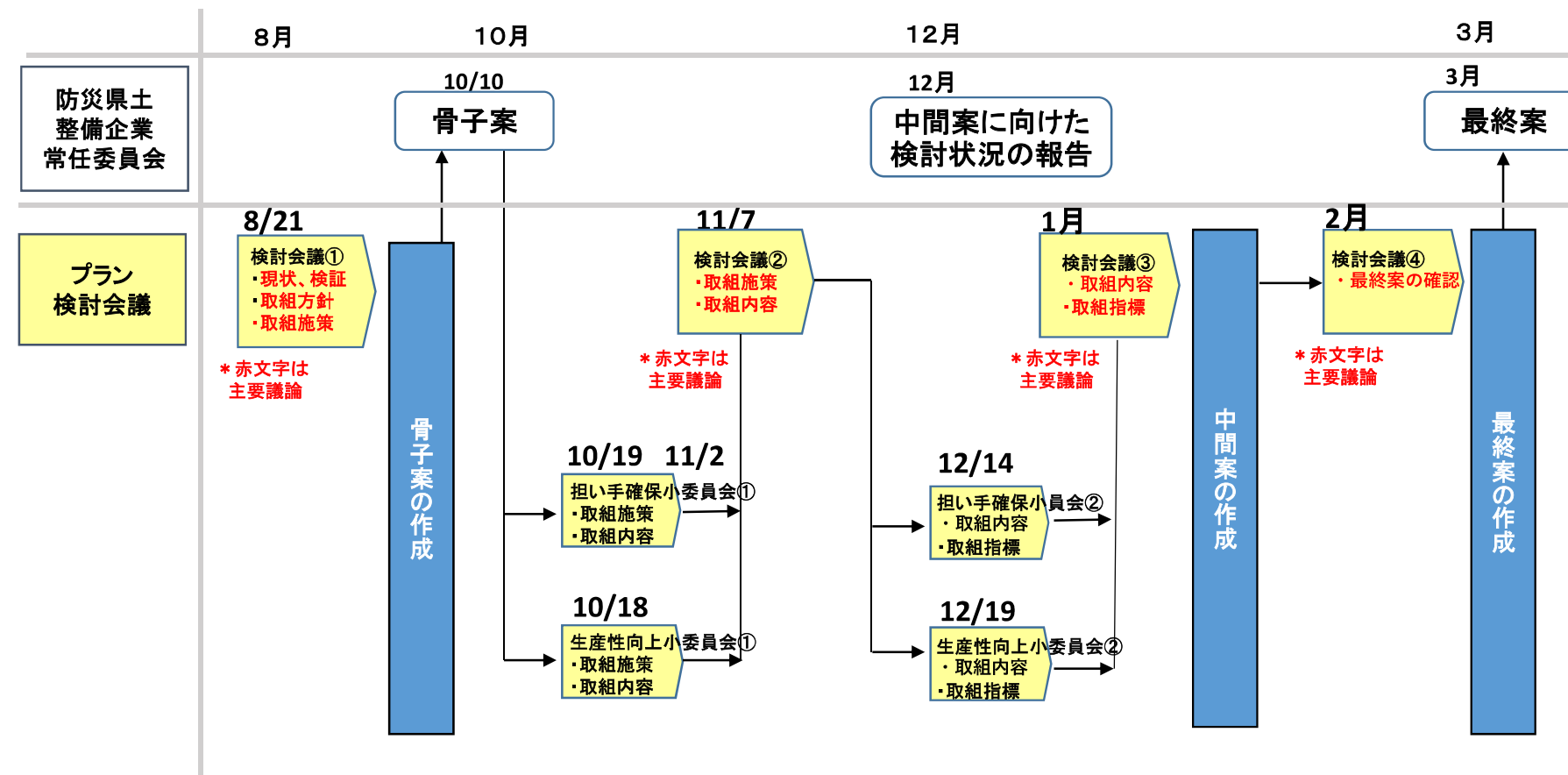
### 1. 策定スケジュールと議論内容



- 1. 策定スケジュール（案）**
- 2. 検討会議で議論いただく内容（案）**
- 3. 検討会議と小委員会の議論内容（案）**



# 1. 策定スケジュール(案)



次期三重県建設産業活性化プラン(仮称)策定 令和6年3月(目標)



## 2. 各会議で議論いただく内容（案）



※現状分析・課題、  
現プランの検証を  
踏まえ、取組方針、  
取組施策を中心に  
議論

※取組施策、取組内容を  
中心に議論

※取組施策、取組内容、  
取組指標を議論

※最終案を全般に  
わたり確認する

議論：各会議で主にご議論いただきたい部分



### 3. 検討会議と小委員会の議論内容（案）

予定	検討会議	小委員会
8/21	【第1回】現状分析・課題、現プランの検証 取組方針の決定、 取組施策の方向性確認	検討会議でいただいた意見踏まえ 小委員会で議論
10/18、19 (※10/31、11/2)		【第1回】取組施策、取組内容の考案
11/7	【第2回】小委員会意見の方向性確認 ※小委員会で出た意見の対応について 方向性を確認	検討会議でいただいた意見踏まえ 小委員会で議論
12/14、19		【第2回】取組内容、取組指標の考案
1月予定	【第3回】取組施策、取組内容、取組指標の決定 ※小委員会の議論を踏まえ決定	
2月予定	【第4回】最終案の内容確認	

(※ 第1回の小委員会の予備日)

## 2. 小委員会の開催結果と意見対応の方向性



- 1. 第1回小委員会の開催結果**
- 2. 小委員会意見対応の方向性**
- 3. 意見を反映させた取組内容（案）**



# 1. 第1回小委員会の開催結果

## 第1回小委員会の開催結果

### 【会議概要】

建設産業の現状分析結果、現プランの取組結果から、次期プランで取り組むべき課題を整理し、左記の3つの取組方針に基づき、各小委員会のテーマごとに委員の立場から忌憚ない意見を頂いた。



### 担い手確保小委員会

開催日：10月19日（木）、11月2日（木）

#### 【検討内容】

- **魅力発信**など、教育機関との連携取組
- **望まれる労働環境**と実現に向けての取組（共通）



役職	氏名	分野
成蹊大学 経済学部 名誉教授	井出 多加子	学識経験者
三重県立津工業高等学校 教諭	山脇 和吉	教育
三重県立桑名北高等学校 主幹教諭	井上 和也	
三重県立紀南高等学校 教諭	福田 美佳	
三重県建設業協会 労働委員会 委員長	伊藤 秀樹	建設企業
三重県建設業協会 女性部会 会長	松本 くみ子	
三重県県土整備部 副部長(公共事業総合政策担当)	上村 告	行政

### 生産性向上小委員会

開催日：10月18日（水）

#### 【検討内容】

- **建設DX等**の生産性向上の具体取組
- **望まれる労働環境**と**実現に向けての取組**（共通）



役職	氏名	分野
名古屋工業大学大学院 工学研究科 教授	秀島 栄三	学識経験者
(一社)建設ディレクター協会 理事長	新井 恭子	建設DX
中部-Construction研究会 ICTアドバイザー	福嶋 成仁	
中部-Construction研究会 ICTアドバイザー	有城 和哉	建設企業・ 建設DX
三重県建設業協会 土木委員会 副委員長	山野 浩	建設企業
三重県県土整備部 技術管理課長	濱瀬 賢司	行政



# 1. 小委員会意見対応の方向性

## 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 建設業の魅力を伝えることができていないことは学校側にも反省点がある。
- 業界全体を知ってもらうためには、個々の企業では負担が大きい。業界・行政で行うことが必要。



## 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・ 建設業の現状や魅力(※)を発信する新たなツールとして動画を活用していきます。
- ・ 動画は学校・業界・行政の意見を踏まえ作成し、作成した動画は、企業や学校が、建設業界のPRや魅力発信のために使用できるようにしていきます。

- ※ 魅力・やりがいとは・・・
- ・ ものづくりの楽しさ・達成感
  - ・ 人命と財産を守る仕事
  - ・ 地図に残る大きな仕事
  - ・ 労働環境の変化（週休2日、建設ディレクターや建設DX）など



## 担い手の確保

今回議論



【別冊】 P 33 （1）教育機関・建設業界・行政との連携

- 1) 学校（進路指導教諭）訪問等
- 2) 進路教諭と建設企業の交流会

【別冊】 P 34 （2）生徒への魅力発信・動機付け

- 1) 出前授業・現場見学会等の開催
- 2) 多角的な広報活動



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 建設業は求人票に「作業員」と記載されるが、「技能職」等言い換えるべき。言葉を見ただけで候補から除外されてしまう。
- 大手企業は高校生の人材確保に力を入れており、生徒向けの採用HPを展開している企業もある。
- (建設企業は) 求人票については、業界全体として、時代に合わせた内容に更新していく努力が欠けているが、どのように書けばいいかわからない。
- 求人票の書き方など、教員との交流会の中で説明させてもらっても良い。
- 中小企業では、採用担当者を人材育成することが難しい。

### 意見対応の方向性 (事務局案)

今回議論

- ・ 建設企業が採用活動（求人票の書き方、魅力あるHPの作り方など）に関して進路指導教諭からのアドバイスを受け、より効果的な採用活動が実施できるように支援します。

### 担い手の確保

次回議論

反映する  
取組

【別冊】 P 33 (1) 教育機関・建設業界・行政との連携  
3) 採用活動における連携



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 普通科高校にも積極的に出前授業等を実施してもらっていることは頼もしく感じている。今後も力を入れてやっていただきたい。
- 地元企業の協力で建設業との交流会も取り組んでいる。多くの生徒が興味を持つことは難しいが、プラスに働いている。
- 高校のOB・OGが学校訪問することは効果的である。知っている先輩が入社1～2年目の社員として話をしてくれると生徒の心に刺さる。
- 建設業のやりがいを大きく発信する必要がある。

### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・ より多くの生徒に魅力を伝えるため、普通科高校に対し積極的に出前授業・現場見学会等を実施していきます。
- ・ OB・OG訪問の実施、ものづくりの楽しさや技術の習得など建設業のやりがいを発信することで、生徒の心に響く取組の実施を促進します。

### 担い手の確保

次回議論

反映する  
取組

【別冊】 P 34 (2) 生徒への魅力発信・動機付け  
1) 出前授業・現場見学会等の開催





## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 建設業は現場の繋閑差があり、実施時期によってはインターンシップの実施が適切でない場合がある。現場の掃除しかさせてもらえず、イメージが悪化したケースがある。
- 企業見学時に説明者が一生懸命プレゼンしたことに心を打たれ、説明を受けた生徒の進路希望が変わったという話を聞いた。
- インターンシップに参加した生徒が、そのままその会社に就職したケースがある。
- 高校1年生を対象に、生徒が自らコースを選択して企業見学・体験ができる進路研究を実施している。就職後のイメージ、興味を持ってもらうため数年間継続している。
- 高校2年生の選択科目として金曜日（年間16回）に自宅から直接企業に行き、職場体験をするインターンシップを実施している

### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・ インターンシップの場を利用した建設業の魅力発信を促進します。
- ・ 学校のカリキュラムに沿って、生徒の学年に応じた効果的な取組（実施時期、内容の検討）を実施していきます。

### 担い手の確保

次回議論

反映する  
取組

【別冊】 P 33 （1）教育機関・建設業界・行政との連携  
1）学校（進路指導教諭）訪問等

【別冊】 P 34 （2）生徒への魅力発信・動機付け  
1）出前授業・現場見学会等の開催



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 生徒向け求人票管理システムアプリは保護者も閲覧できるため、効果的なツールとして広がりつつある。
- 就職活動や進学活動は、保護者が大きく影響を与えている。ほぼ内定していても保護者が反対して辞退された事例もある。
- 大雪発生時の雪氷対策など建設業への理解が深まってきているが、保護者の心を掴めていない。



### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・ 生徒や保護者が多く利用している求人票管理システムアプリを活用し、身近に情報が得られるような効果的な広報活動を促進します。
- ・ 保護者に対して、従来の建設業のイメージから転換できるよう、労働環境の改善の取組など、保護者に響く建設業の魅力発信を実施していきます。



### 担い手の確保

次回議論

反映する  
取組

【別冊】 P 34 (2) 生徒への魅力発信・動機付け  
2) 多角的な広報活動



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「生産性向上 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 工業高校で学習する技術は基礎的な内容であり、現場で使用している最先端の技術を学べていない。学校と地域の建設企業が連携して今の技術で勉強会を開催することが効果的。
- 出前授業をした際、建設業の使命を説明することで就職を考える際の選択肢になる可能性があると感じた。
- 3Dを使用した方が見栄えが良い。若者が活躍できる場としてPRできれば、担い手の確保につながる。

### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・ 工業高校において、今の技術が学べるよう学校と企業とが連携して取り組みます。
- ・ 就職の選択肢に加えてもらえるよう、生徒に建設業の使命を説明します。
- ・ 魅力発信において、3Dを使用したものをPRしていきます。

### 担い手の確保

次回議論

反映する  
取組

- 【別冊】 P 33 (1) 教育機関・建設業界・行政との連携  
2) 進路教諭と建設企業の交流会  
P 34 (2) 生徒への魅力発信・動機付け  
1) 出前授業・現場見学会等の開催



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 若手女性社員にとって、地域の建設業は、衣服等の恰好や勤務時間など比較的柔軟な働き方ができるため、自由度の高い職場であると捉えている様に思う。
- キャリアデザインを明確にして、自分の努力次第で実現できる事項など製造業とは違った魅力を見つけてもらいたい。

### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・魅力発信においては、建設企業に他の産業にはない建設業ならではの魅力を聞き取り、発信していきます。
- ・建設企業においては、就職後のキャリアデザインを示すことが重要となため、その取組（企業におけるキャリアデザイン作成）が実施できるように支援します。

### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 34 （2）生徒への魅力発信・動機付け  
2）多角的な広報活動

### 労働環境の改善

反映する  
取組

【別冊】 P 41 （4）適正な利潤の確保・人材育成・福利厚生  
3）福利厚生の充実

次回議論



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 今の生徒は「給料」「休日」「きれい（勤務形態）」といった新たな3Kを重視しており、求人票でもこの3点は重要な項目である。

### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・採用活動において、生徒のニーズを踏まえ、求人票への記載項目の改善を促進します。
- ・生徒が重要視する内容が実現できる労働環境を整えるため、適正な企業利潤の確保、週休2日、労働時間の削減、安全な職場環境等の実現に対して取組を実施します。

### 担い手の確保

反映する  
取組

- 【別冊】 P 33 （1）教育機関・建設業界・行政との連携  
3）採用活動における連携

### 労働環境の改善

反映する  
取組

- 【別冊】 P 38 （1）週休2日制の定着  
1）4週8休の定着  
2）市町発注工事における週休2日制工事の定着  
3）民間発注工事への周知・促進
- 【別冊】 P 40 （3）安全で快適な労働環境の実現  
2）誰もが快適に働くことができる職場環境の整備
- 【別冊】 P 41 （4）適正な利潤の確保・人材育成・福利厚生  
1）適正な利潤の確保への適切な対応

次回議論



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- どんな資格が取得できるか等、将来の仕事が見えて、どのくらいの給与水準かといったことがパンフレットに記載されている企業は教員からの評価が高い。

### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・生徒や教員のニーズを踏まえ、適切な情報を記載したパンフレットの作成を促進します。
- ・生徒に就職後の将来像を示していけるように、企業に対してキャリアパス（役職、経験年数、職務内容、必要とする資格など）の策定を促進します。

### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 33 （1）教育機関・建設業界・行政との連携  
3）採用活動における連携

### 労働環境の改善

反映する  
取組

【別冊】 P 41 （4）適正な利潤の確保・人材育成・福利厚生  
3）福利厚生の充実

次回議論



# 1. 小委員会意見対応の方向性

## 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 資格の取得支援について、個人負担をいかに減らすかが人材育成としては大事



## 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・ 工業高校において、在学中から就職後に必要となる資格の取得支援を実施していきます。
- ・ 企業において、若手従業員のキャリア形成に活かされる資格取得が促されるよう、必要な支援策を実施していきます。



## 担い手の確保

次回議論

反映する  
取組

【別冊】 P 34 （2）生徒への魅力発信・動機付け  
3）資格の取得支援



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- U・Iターンは、その土地や人に魅力があって移住する。
- 衣食住だけでは人は来ない。教育や福祉、働く場所などがワンストップで提供されることで移住する。三重県の魅力発信と建設業をつなげていく仕組みがないと移住しようと思わない。
- 建設業の話をも先に持ってきて、生活していく上で不安材料があると移住しない。まず自分たちの生活ができることが前提。
- 空き家対策など、何かの取組施策と建設業の雇用を組み合わせる紹介することができれば良い。

### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

・教育や福祉、衣食住と合わせて建設業の魅力を発信していく取組を実施していきます。

### 担い手の確保

次回議論

反映する  
取組

【別冊】 P 35 (3) U・Iターン人材等への働きかけ  
1) 他部局連携によるU・Iターン人材確保





## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 全体的に全産業で担い手不足となっており、ここ数年で解消されるとは思えない。
- 外国人労働者の育成も大きなテーマである。
- 監理者・技術者の外国人労働者はあまりみかけない。実例を作って欲しいと思う。
- 外国人労働者が現場に入ると、提出する書類が煩雑になると聞く。
- 困っている企業に対して、手続きで困らないよう行政が支援すべき。

### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

・外国人雇用制度への理解を進めるため、他部局が開催する外国人雇用制度に係る説明会等に建設企業が参加できるよう、業界への周知及び他部局との連携・調整を実施していきます。

### 担い手の確保

次回議論

反映する  
取組

【別冊】 P 35 (3) U・Iターン人材等への働きかけ  
3) 外国人雇用への働きかけ



## 2. 小委員会意見対応の方向性

委員意見

「生産性向上 小委員会」にて出された意見（ICT活用工事）

- Bランク企業にICTを活用する意識が不足している。
- 採算面が合わないのでICT施工を実施できない現場もある。実施率を上げるためには、実情に見合った設計額を設定する必要がある。

現状

三重県は平成30年度から本格的にICT活用工事に取り組んでおり、現在、実施率は65%、企業経験率はAランク64%、Bランク22%となっています。また施工者のアンケート結果からは、生産性が従来施工より約4割向上することを確認しています。



意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・ 未経験企業を対象にICT活用工事のメリット等を説明し、企業経験率を向上させます。
- ・ ICT活用工事における採算性や生産性向上の効果が現場条件等でどう異なるかを検証し、より効果のある施工プロセスの活用例を示すなどを行います。



生産性の向上

次回議論

反映する  
取組

- 【別冊】 P 36 (1) 建設現場における生産性向上
- 1) 建設DXの推進
  - 2) ICT活用工事の推進

※ICT活用工事とは、ドローンやICT建機により測量や施工など5つのプロセスで生産性を向上させる工事です。



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「生産性向上 小委員会」にて出された意見 (ICT活用)

委員意見

- 発注者側が建設業界の実態を理解し、どの程度効果があるか検証することが必要。
- ASPや3次元測量などを使用して効率化した施工プロセスを評価する仕組みが必要。
- ICTは特殊な仕事であり、専門的な人材がいなければ難しい。(建機リース会社としては)最初は外注で一緒に取り組もうというスタンスで対応している。
- ICTを自社で行うには、専門的な人材を育成することが必要で、分業化していくことで利益がでて普及に繋がっていく。

### 意見対応の方向性 (事務局案)

今回議論

- ・ 建設DXにより生産性向上を図った場合のインセンティブを検討します。
- ・ ICT研修会を開催するなど、ICTを活用できる人材の育成に取り組みます。
- ・ 建設企業のICT専門人材を育成します。

### 生産性の向上

反映する  
取組

【別冊】 P 36 (1) 建設現場における生産性向上  
1) 建設DXの推進

### 労働環境の改善

反映する  
取組

(2) ICT人材育成  
1) ICT研修による人材の育成

【別冊】 P 39 (2) 施工管理の効率化・分業化  
1) 施工管理の社内分業化への支援

※ICT活用とは、ASPや遠隔臨場など、あらゆるDXにより生産性を向上させる取組です。

※ASPとは、インターネット上で工事書類のやりとり(提出・決裁)、図面などのデータ共有を行うシステムです。



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 社内分業による業務の効率化、時間外削減に効果があると考える。
- 建設ディレクター制度（バックオフィス）を取り組みたいと考えているが、なかなか若手（女性の方）に振り向いてもらえない。高校の求人にもどのように記載すればよいか分からない。
- 建設ディレクターに仕事を任せる側の現場監督が、現場状況を遠隔で説明できず現場に来てほしいと考えているため、分業化がうまく機能していない。
- 建設ディレクターの成功例を示すことで、建設企業が取り組むヒントになる。

### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・バックオフィスを活用している企業によるセミナー等を実施していきます。
- ・バックオフィスについて、進路指導教諭からのアドバイスを受け、高校生に対して、より効果的な紹介が実施できるように支援します。

### 労働環境の改善

反映する  
取組

【別冊】 P 39 （2）施工管理の効率化・分業化  
1）施工管理の社内分業化への支援

### 担い手の確保

反映する  
取組

【別冊】 P 33 （1）教育機関・建設業界・行政との連携  
3）採用活動における連携

次回議論



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

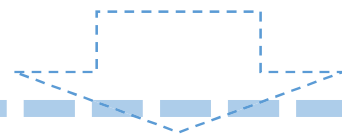
- 以前と比較すると状況は改善してきているが、完全な週休二日には至っていない。人員を交代しようにも人員がない。
- 4週6休を達成しているが、4週8休には至っていない。
- 市町の工事は週休二日が評価される訳ではない。発注者の考え方に左右される。休み方に差がでてくる。



### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・完全週休2日制工事や交替制モデル工事を推進します。
- ・市町の取組が加速するよう県の取組を情報提供するとともに、啓発や必要な支援を実施します。
- ・建築確認審査機関等に対し、民間企業（建築確認申請者）の適正な工期設定、週休2日の確保、時間外労働時間の削減等の周知を依頼します。



### 労働環境の改善

次回議論

反映する  
取組

- 【別冊】 P 38
- (1) 週休2日制の定着
    - 2) 市町発注工事における週休2日工事の定着
    - 3) 民間発注工事への周知・促進



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「担い手確保 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 以前より安全環境は改善されている。福利厚生も自信を持って伝えられるぐらいになってきている気がする。
- サマータイム導入は考えられる。夏は涼しい時間に作業して、早く終わらせて帰るほうが良い。フレックスができればよいが、近隣住民の苦情は発生する。
- サマータイムは有効かもしれない。イメージアップにもつながる。実証実験をしてはどうか。

### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・建設業の魅力発信として、安全環境の改善をアピールしていきます。
- ・フレックスタイムなど労働環境の更なる改善を検討します。

### 労働環境の改善

次回議論

反映する  
取組

【別冊】 P 40 (3) 安全で快適な労働環境の実現  
1) 施工現場の安全確保（事故防止の徹底）



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「生産性向上 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 週休二日制は、公共土木は工期を確保できているが、民間建築は対応が難しい。
- 他の企業が土曜日に働いている状況を見ると、業界として良くないと思うため、業界全体として週休2日が浸透していくよう進めてほしい。



### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・ 県工事以外（民間、市町）発注工事の週休2日制を促進させるため、民間発注者への普及啓発や市町への取組要請を行います。



### 労働環境の改善

次回議論

反映する  
取組

- 【別冊】 P 38
- (1) 週休2日制の定着
    - 2) 市町発注工事における定着
    - 3) 民間発注工事への周知・促進



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「生産性向上 小委員会」にて出された意見

委員意見

- 技術者の仕事の6割が書類作成業務のため改善が必要。バックオフィスと現場が共同で取り組むリモート体制を活用する必要がある。
- バックオフィスを進めていくためには、企業内での体制づくりが必要。また人材においては、現場の基礎知識が一定必要。
- 建設業での新たな働き方が認知されはじめ、建設業のイメージアップにつながっている。キャリアパスを設定することで、自分のライフステージに合わせて、現場とバックオフィスを選択できるのではないか。

今回議論

### 意見対応の方向性（事務局案）

- ・施工管理の分業化を進めるための企業内の体制づくり、人材育成、環境整備に取り組む必要があり、バックオフィス導入促進などの支援に取り組みます。

### 労働環境の改善

次回議論

反映する  
取組

- 【別冊】 P 39 (2) 施工管理の効率化・分業化
- 1) 施工管理の社内分業化への支援
  - 2) 施工管理の効率化を支援





## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「生産性向上 小委員会」にて出された意見

委員意見

- ⑬ 県はASPをもっと推進してもらいたい。工夫して業務時間を削減することで、時間外労働時間規制に対応できる。
- ⑭ ASPは書類や掲示板、設計図の図面など様々な場面で活用できる。
- ⑮ ASPは受注者や発注者間だけでなく、社内での活用が進まなければ普及は難しい。
- ⑯ 映像により現場を可視化し、遠隔で管理ができることは効果的である
- ⑰ 工事成績で点数をとるため、書類作成が非常に多い。



### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・ 県発注工事においてASP活用を推進します。
- ・ 市町へASP導入に向けた説明会や支援に取り組みます。
- ・ ASPや遠隔の活用事例を紹介し、社内活用も促進します。
- ・ 工事書類の標準化に取り組みます。



### 労働環境の改善

次回議論



【別冊】 P 39 （2）施工管理の効率化・分業化  
2）施工管理の効率化を支援



## 2. 小委員会意見対応の方向性

### 「生産性向上 小委員会」にて出された意見

委員意見

- ICTは熟練度に関係無く施工でき、安全性も高い。BIM/CIMを活用すれば危険箇所も分かる。安全な作業、事故の減少によりイメージアップを図ることができる。
- ICT建機は、山合・谷合の現場で使用することが多い。ICT建機導入により安全性が高まる点をPRしている。

### 意見対応の方向性（事務局案）

今回議論

- ・ 安全性を高めるためにも、ICT建機やBIM/CIMの活用を推進します。
- ・ 労働安全対策としてDXの活用を推進します。

### 労働環境の改善

次回議論

反映する  
取組

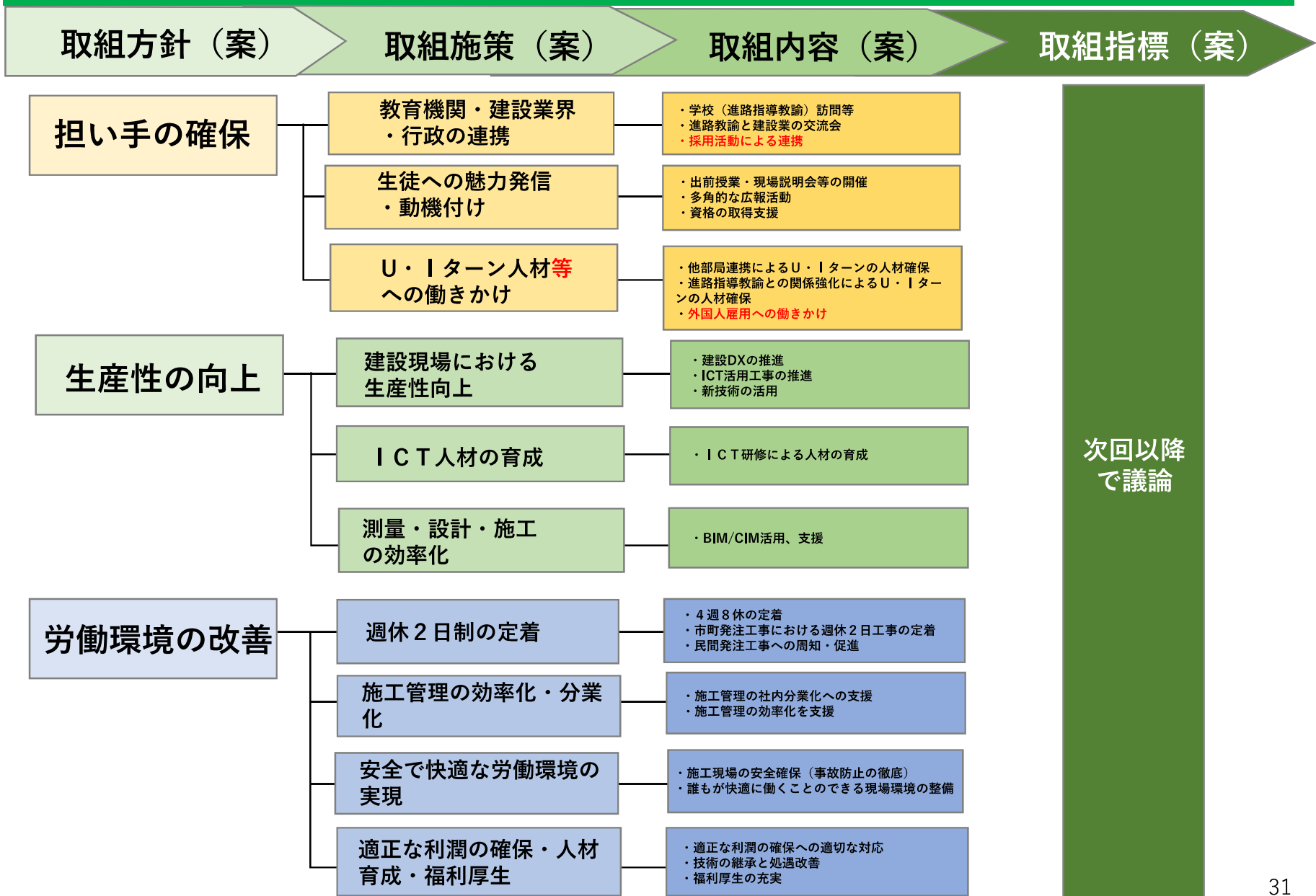
【別冊】 P 40 （3）安全で快適な労働環境の実現  
1) 施工現場の安全確保

## その他 反映したい内容

項目	業界から寄せられている意見の概要
高校へのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"><li>• 普通科高校を含め三重県全体の高校へアプローチすることが大事。</li><li>• 出前授業や現場見学会など、他の手法も含めて効果的な手法の検討が大事</li><li>• 出前授業や現場見学会などの良い事例をマニュアル化してほしい</li></ul>
週休2日制工事の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>• 週休2日制は喫緊の課題。あわせて適正な工期の設定ということが必要。また発注時期、平準化も併せて検討も必要。</li><li>• 土曜日工事は民間工事で多く、週休2日のアプローチが必要。あわせて市町についても同様にアプローチが必要。</li><li>• 地域維持型業務や河川内工事などに対する週休2日制の考え方の検討が必要</li></ul>
バックオフィスの導入	<ul style="list-style-type: none"><li>• 現場の負担を減らせるという意味で、建設ディレクター（バックオフィス）はいいこと。</li><li>• 建設ディレクターの役割や立場を明確化してほしい。</li></ul>
遠隔臨場の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>• 遠隔臨場は、県全体で取り組むことによって、かなり効率が上がる。</li></ul>
現場事故防止の徹底	<ul style="list-style-type: none"><li>• 事故防止のアプローチとしては、作業の途中段階でのパトロールなどが効果的</li></ul>
利潤確保の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>• 三重県の平均落札率は他県と比べて非常に低い。</li><li>• 県内建設企業の工事受注量の確保が必要。</li><li>• 担い手確保、技術者育成の取り組むための経費が必要。</li><li>• 適正な諸経費、物価及び資材上昇分を適正に工事価格へ反映することが必要。</li></ul>



### 3. 意見を反映させた取組内容（案）



# 3. 意見を反映させた取組内容（案）

## 「3つの取組方針」

### 【担い手の確保】

#### 目指すべき姿

新卒者やU・Iターン人材の建設業界への  
入職が定着している



### 【生産性の向上】

#### 目指すべき姿

土工工事においてICTが普段使いになっている



### 【労働環境の改善】

#### 目指すべき姿

自分・家族の時間が大切にでき、安全で働きやすく、  
将来に希望がもてる労働環境となっている。





## 3. 意見を反映させた取組内容（案）「担い手の確保」

### (1) 教育機関・建設業界・行政との連携

#### 1) 学校（進路指導教諭）訪問等

- 学校、建設業界及び行政の関係性を構築、強化するため、各学校の進路指導教諭等の定期的訪問を実施
- 学校訪問等により各学校の進路状況や進路ガイダンス、**カリキュラム等**の情報を収集し、建設業の魅力発信機会の創出



#### 2) 進路教諭と建設企業の交流会

- 進路指導教諭への建設業の理解を促進させるため、教員と建設企業との交流会を開催
- 工業高校と地域の建設業の実情に精通した外部人材との連携強化（又は、地域の建設業に関する情報提供の実施）



#### 3) 採用活動における連携

- 進路指導教諭から採用に関するノウハウ（求人票の表現方法、効果的なツールの活用等）のアドバイス・提供



# 3. 意見を反映させた取組内容 (案) 「担い手の確保」

## (2) 生徒への魅力発信・動機付け

### 1) 出前授業・現場見学会等の開催

- 建設業に触れる機会を創出し、生徒へ建設業の魅力発信するために出前授業・現場見学会等を開催
- より多くの生徒に対して建設業に触れる機会を創出するために、好事例をマニュアル化し、普通科高校含めて他校に水平展開
- 生徒に建設業の魅力がより伝わるよう、OBによる学校訪問や企画段階から生徒が関わる魅力発信取組を実施
- インターシップを活用した建設業の魅力発信
- 他の産業にない建設業ならではの魅力発信



### 2) 多角的な広報活動

- 建設業を知ってもらうための多種多様な広報活動の実施（動画・冊子・掲示場所・写真展）
- 新しい情報を速やかに伝えるため、SNSによる魅力発信
- より多くの生徒や保護者に建設業の取組を届けるため、各学校の実施する情報発信との連携（HP、SNS、部活連携）
- 中高生より下の世代や保護者への魅力発信の実施
- 生徒が使用しているサイト等の活用

#### SNS



#### 三重高（HP）



### 3) 資格の取得支援

- 生徒に建設業への入職を早期に動機づけるため、高校在学中に建設業に係る資格の取得を支援（人材支援・金銭支援）を実施





# 3. 意見を反映させた取組内容（案）「担い手の確保」

## (3) U・Iターン人材等への働きかけ

### 1) 他部局連携によるU・Iターン人材確保

- 他部局の就職イベント等に建設企業が参加できるように、他部局と連携・調整
- U・Iターン受入会社のリストを作成し、他部局と情報共有
- U・Iターンを希望する人材への建設業の魅力発信



### 2) 進路指導教諭との関係強化によるU・Iターン人材の確保

- U・Iターン人材の再就職を支援するために、高校（進路指導教諭）、業界、行政が情報共有を強化するなど、U・Iターン人材が再就職しやすい環境を整える

### 3) 外国人雇用への働きかけ

- 他部局が開催する外国人雇用制度に係る説明会等に建設企業が参加できるように、業界への周知及び他部局との連携・調整







## 3. 意見を反映させた取組内容（案）「生産性の向上」

### （1）建設現場における生産性向上

#### 1）建設DXの促進

- 建設DXの取組を普及するため、受注者に対して促進説明会を開催
- 市町職員に建設DXの取組を普及するため、説明会を開催
- 建設DXの取組の参考となるよう、企業向けに先進事例や活用事例を掲載したガイドブックを作成



#### 2）ICT活用工事の推進

- ICT施工未経験者へのICT導入を支援するため、発注者により3次元測量を実施し、受注者に3次元測量データを提供
- 市町発注工事においても生産性向上を図るため、市町工事でのICT活用を支援



#### 3）新技術の活用

- 小規模工事においても出来形管理作業が省人化、省力化できるように汎用モバイル機器などの活用を推進
- あらゆるDXにより生産性向上を図るため、新技術の登場を注視し、積極的に導入



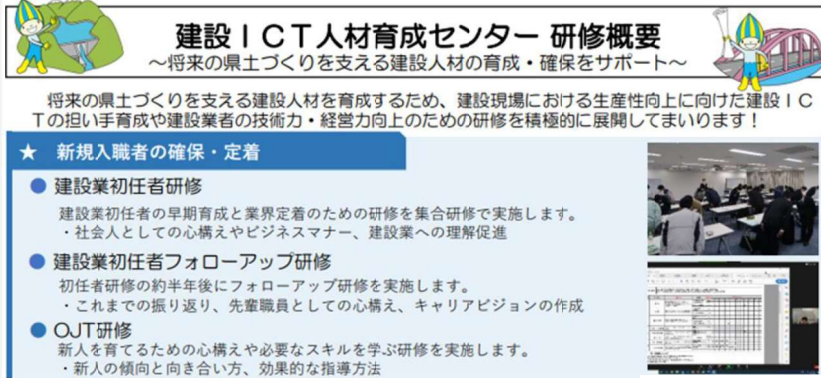


# 3. 意見を反映させた取組内容（案）「生産性の向上」

## (2) ICT人材の育成

### 1) ICT研修による人材の育成

- ICT活用工事が内製化できるよう、3次元データ作成ができる人材を育成
- 迷う時間をなくし、より生産性を向上させるためICT活用工事相談窓口を開設



**建設ICT人材育成センター 研修概要**  
～将来の県土づくりを支える建設人材の育成・確保をサポート～

将来の県土づくりを支える建設人材を育成するため、建設現場における生産性向上に向けた建設ICTの担い手育成や建設業者の技術力・経営力向上のための研修を積極的に展開してまいります！

★ 新規入職者の確保・定着

- 建設業初任者研修  
建設業初任者の早期育成と業界定着のための研修を集合研修で実施します。  
・ 社会人としての心構えやビジネスマナー、建設業への理解促進
- 建設業初任者フォローアップ研修  
初任者研修の約半年後にフォローアップ研修を実施します。  
・ これまでの振り返り、先輩職員としての心構え、キャリアビジョンの作成
- OJT研修  
新人を育てるための心構えや必要なスキルを学ぶ研修を実施します。  
・ 新人の傾向と向き合い方、効果的な指導方法

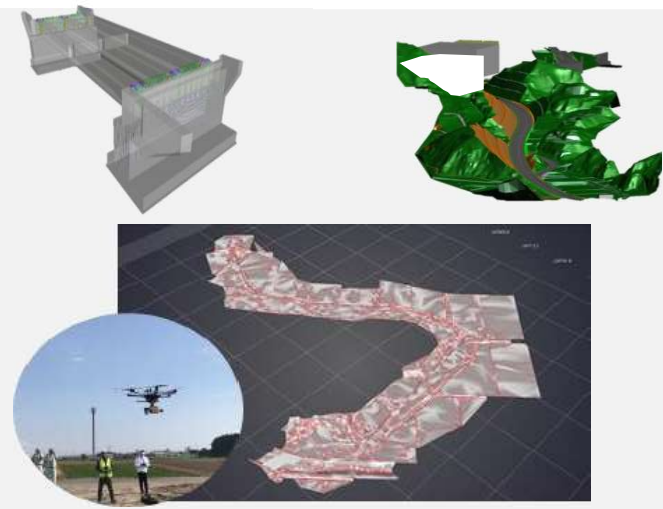


(他県事例)

## (3) 測量・設計・施工の効率化

### 1) BIM/CIM活用、支援

- 事業の各プロセスの受注者が3次元モデルを活用できるよう、受発注者間でBIM/CIM成果を共有
- BIM/CIM成果を有効に使えるよう、ICT施工に活用できる3次元測量データを提供





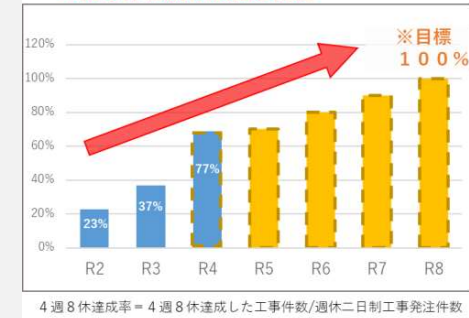
# 3. 意見を反映させた取組内容（案）「労働環境の改善」三重県 Mie Prefecture

## (1) 週休2日制の定着

### 1) 4週8休の定着

- 建設現場の4週8休を定着させるため、発注者指定型の工事発注（月2回土日完全週休二日制）や適正な工期設定による工事発注を実施
- 時間外労働規制、担い手確保等に対応するため、土日完全週休二日制工事・交替制モデル工事を導入
- 現場閉所困難工事や河川工事、維持管理業務等への対応として、交替制工事を導入・実施

4週8休指定型工事の拡大により  
4週8休達成の取組を促進



### 2) 市町発注工事における週休2日工事の定着

- 市町発注工事の4週8休の定着のため、発注者協議会三重県部会において市町の取組が加速するよう県の取組を情報提供するとともに、啓発や必要な支援を実施

◎市町の週休2日制工事の状況（令和4年度実績）

- 導入状況  
全29市町のうち28市町にて制度を導入  
⇒制度としては浸透
- 発注工事に対する実施件数の割合  
約10%（267件/2812件）  
⇒制度は浸透しているが、工事件数は少なく週休2日制工事が浸透していない。

### 3) 民間発注工事への周知・促進

- 建築確認審査機関等に対し、民間企業（建築確認申請者）の適正な工期設定、週休2日の確保、時間外労働時間の削減等の周知を依頼
- 労働局との連携し、時間外労働の上限規制適用を周知

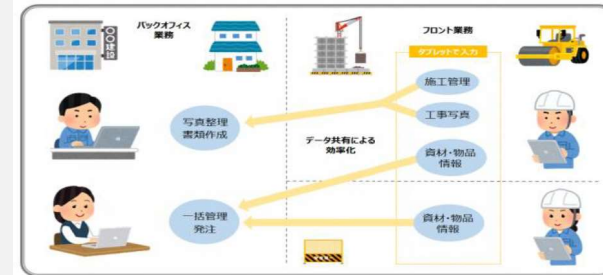




## (2) 施工管理の効率化・分業化

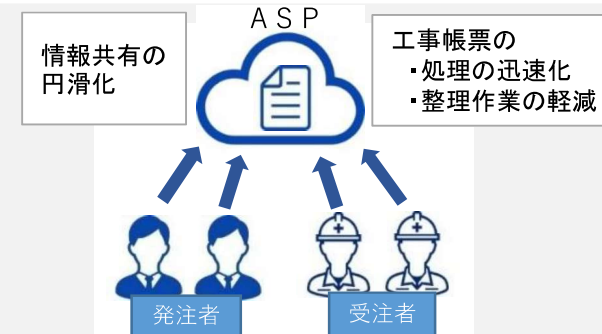
### 1) 施工管理の社内分業化への支援

- 普及・啓発のための説明会等の開催
- 施工管理を効率化・分業化し、労働時間を短縮するためにバックオフィスの導入費用等を支援
- 発注工事におけるバックオフィスの役割の明確化



### 2) 施工管理の効率化を支援

- 工事帳票処理の迅速化、整理作業の軽減を図るため、県発注工事においてASP活用を推進
- 施工管理の効率化を図るため、県発注工事において遠隔臨場活用を推進
- 市町発注工事においても効率化を図るため、ASP及び遠隔臨場の導入を支援
- 工事帳票の簡素化及び標準化を推進
- 現場での疑問を解消するため、契約後速やかに設計図書に関する情報を共有するデータシェアリングを推進





## （3）安全で快適な労働環境の実現

### 1）施工現場の安全確保（事故防止の徹底）

- 従業員の安全を守り、建設業のイメージを向上するために、現場での事故を防止する取組（安全パトロール、ICT建機、BIM/CIMの活用）を強化



### 2）誰もが快適に働くことができる現場環境の整備

- 女性等が建設現場で心身共に快適に働くことができる職場環境の整備
- フレックスタイムの実証実験



## （4）適正な利潤の確保・人材育成・福利厚生

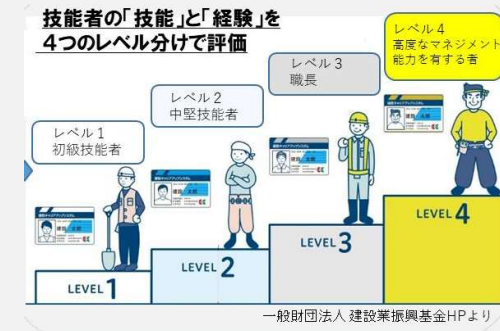
### 1) 適正な利潤の確保への適切な対応

- 建設資材などの設計単価を早期改定し、適正な予定価格の設定
- 適切な設計変更の実施
- 適正な工期の確保
- 安定経営に向けた適正利潤確保のための入札契約制度の検証



### 2) 技術の継承と処遇改善

- 技術の継承のため、現場代理人等の技術者に若手の配置を促す工事の実施
- 技能者の就業履歴の蓄積による能力の評価、技能や経験を反映した処遇の改善のため、CCUS活用工事の一層の推進



### 3) 福利厚生の充実

- 若手の育成や定着のために、建設企業が実施する人材育成や福利厚生等の取組を支援する。（キャリアパスの策定、資格取得等のキャリアアップのための支援、福利厚生の充実、ハラスメント研修の開催）